

たけた

市議会だより

No.5 発行 平成18年8月1日

編集 市議会だより編集委員会 ☎0974-63-4813 印刷 えとう印刷



「自然・歴史・文化を育む名水名湯田園観光都市」
名湯(その1) 萩の里温泉(竹田市萩町新藤)

新市のこれから…
「竹田市総合計画」
策定

「将来都市像—自然・歴史・文化を育む名水名湯田園観光都市—をめざして」

竹田市議会6月議会(第2回定例会)が開催されました。今回の主要な議題は、今後10年間の竹田市のまちづくりの将来像を定めた「竹田市総合計画」と思います。この計画は合併前の1市3町が策定していた総合計画や合併にあたって策定された「新市建設計画」を基本に策定されました。

この計画の性格は、合併後10年間の行政運営、発展の可能性、国・県の動向や市民の意向を踏まえた総合的かつ計画的な指針です。いま日本のほとんどの市町村が抱えている課題は①人口減少と高齢社会②少子化の進行等だと思います。本市も同様ですがこれらの課題解決のため、さまざまな分野の施策に取り組まなければなりません。しかし限られた予算ではこの計画に載っている事業すべてを実施することは出来ません。少ないお金を如何に有効に使って課題を解決するかが問題と考えます。これからこの竹田市が住みやすく、だれもが笑顔で暮らせるまちづくりを皆さんと一緒に考え、行動していきたいと思っています。

(編集委員 坂梨宏之進)

議会の活性化にむけて

議長 児玉 誠 三

昨年5月の第1回臨時議会を皮切りに、本年3月までに、臨時会を5回、定例会を4回開催したが、振り返ってみれば、あつという間の1年間であつた。

市町合併により28名の議員が誕生したが、市・町の議会運営に若干違いがある等、お互いに期待と不安を抱きながらのスタートであつた。

新議会の一体感を醸成するために、議会活動においてはグループや会派を結成する事なく、全員による学習会を計画的に実施しようと「研修委員会」が設置され、これまで開催毎にテーマを掲げ取り組んできた。

28名の議員が、審査や議論を深めるために共通した認識を持つ事や、お互いの地域の特性やこれまでの経過を理解する等、一定の成果をあげる事が出来たと思つてゐる。

また、一・二期の議員による自主的な勉強会の開催等、意欲的な活動も続けられている中、更に学習や研究を深めようと、他市同様に、議会運営上認められている会派制の導入が提案され、そのための先進地視察や、去る4月には県内他市の議長、

議員を講師として招き、意見交換を行う等して、来年度からは会派制による議会運営の実施を全員で確認したところである。



講師を招いての研修会

会派とは多数決を原則とする議会において、自らの政策の実現や発言権の確保のために、同じような考えを持つ議員同士が集まり活動するグループの事を言うが、一部に心配する声があるように、数ありきではなく、各々の議員がその目的を持ち、活動内容についても市民に理解と支持を得られるものでなければならぬ。会派を結成する事により議員個々の資質の向上はもとより、お互いが切磋琢磨す

ることにより議会に課せられた役割を果たす事が出来るよう、その仕組みについて議会運営委員会を中心に更に研究を続けているところである。

さて、今定例会で、本市の最上位に位置する「竹田市総合計画」案が提案され、その基本構想、基本計画の審査につき、特別委員会が設置された。同委員会や各常任委員会を通じ、計画案の作成過程での議論の身や、今後の進め方等を中心に審査を行った結果、全会一致で議決した。これは合併にあたって羅針盤として策定された「新市建設計画」及び旧市町の総合計画を基本とし、今後10年間のまちづくりの将来像を定め、行政運営上の指針として策定されるものである。この計画を基に事業の優先順位や財政状況を勘案しながら今後、毎年実施計画が策定され事業実施となるが、厳しい財政状況の下、執行部に対するチェック機能として、また、政策提言等に前述した「会派」がその機能を発揮し、一層の議会の活性化が図られる事を願つてやまないものである。



第2回定例会

《主な議案の審議結果》

▽専決処分事項「平成17年度竹田市一般会計補正予算(第9号)」について	承認
▽専決処分事項「竹田市税条例の一部を改正する条例」について	承認
▽専決処分事項「竹田市都市計画税条例の一部を改正する条例」について	承認
▽専決処分事項「固定資産税及び都市計画税の納期の特例に関する条例の一部を改正する条例」について	承認
▽専決処分事項「竹田市国民健康保険税条例の一部を改正する条例」について	承認
▽竹田市固定資産評価員の選任について	同意
▽竹田市教育委員会委員の任命について	同意
▽竹田市特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について	決
▽竹田市基金条例の一部を改正する条例について	決
▽竹田市総合計画の策定について	決
▽平成18年度竹田市一般会計補正予算(第1号)について	決
《請願の審査結果》	
▽あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律及び関係法令の整備、並びに違法・脱法施術者への監視指導強化を求める請願	採択
▽公共施設等におけるLPガスの利用に関する請願	採択
《決議・意見書の審査結果》	
▽「暴力追放都市宣言」に関する決議	決
▽あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律及び関係法令の整備、並びに違法・脱法施術者への監視指導強化を求める意見書	決
▽あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律の遵守、及び違法・脱法施術者への監視指導強化を求める意見書	決

一般質問

平成18年第2回定例会は、6月9日から27日までの19日間の日程で開かれました。6月13日、14日の2日間、9人の議員が一般質問を行いましたので、その内容を要約してお知らせします。

なお、原稿は議員本人が執筆しています。



吉竹 悟 議員

少子化対策について

吉竹 少子化進行の把握とその要因、市の将来像を市長に問う。

市長 出生率が05年に1.25まで低下。人口は減少期に入り、高齢化が進行している。要因として若い世代の結婚観・価値観等の変化がある。結婚や出産を望みながら、出来ない環境があれば、取り除く必要がある。少子化が進めば、過疎・高齢化が更に進行し若い労働力の減少、社会保障費の膨らみによる財政への影響が懸念される。

吉竹 少子化対策への取り組みを再検証し、本気で取り組むべき。特にやる気のある職員で、少子化対策プロジェクトチームを編成してはどうか。縦割り行

政ではダメ。領域を超えた議論が必要。好転できれば、抱える問題の解決が可能。また、義務教育間の費用の軽減、休日・土日・延長保育の充実、働く女性の環境整備等が改善されれば、「竹田で子育てをしたい」「竹田に住みたい」という人が増えるのでは。見解は。



元気に遊ぶ子どもたち（直入幼稚園）

企画情報課長 定住促進対策で出産祝い金の交付をしている。第一子・二子に2万円、三子以降5万円を少子化対策として交付している。定住促進対策に更

に力を入れる必要がある。調整連絡会議を持ちながら検討する。

福祉事務所長 安心して子どもを生み育てる環境整備がより必要。子育て支援、経済的支援も充実し、保育事業も良くしていく。

健康増進課長 安心して妊娠・出産・育児を行える支援体制の充実に努める。

市長 連絡調整会議がプロジェクトチームにも今後なりうる。

図書館司書の体制は万全か

吉竹 小中学校21校を図書館司書6人体制で、市費負担による配置をしているが、以前常時配置されていた学校は、機能が低下している。配置されていない学校にはプラスである。が、特にPTA雇用で配置していた学校は、機能低下で平準化されている。司書の方にも稼働率だけが求められているのでは。

教育長 図書館司書の必要性は十分認識している。21校全て公費負担とし、PTA負担をなくした。

学校教育指導室長 PTA負担をなくし市費で全校に配置をした。保護者やPTAから「来る日が減った」「再度PTA雇用をしたい」との批判や不満の声が上がった。今後、人数及び配置を検討する。

補助金について

吉竹 各種団体補助金の目的・効果の検証を行い、そのあり方を再検討するべきでは。補助金を得ることが、目的ではなく手段となるべきでは。

財政課長 過去の補助金の見直し・効果の検証を実績書や清算書の提出を求め行う。提出等が無ければ削減等も考える。

危機管理マニュアル策定状況・市道の維持管理は

吉竹 各方面隊と連携を取り、全体で危険箇所の把握をし、備えを万全にするべき。マニュアル策定は手段で目的ではない。総務課長 団幹部と行政とで万全を期すようにする。

吉竹 市道の維持管理は、常時改善することで災害の予防にもなる。予算のあり方を再度検討するべき。



後藤憲幸 議員

残留農薬制度について

後藤 平成18年5月29日からポジティブリスト制度が施行され

た。この制度は人の健康を損なう恐れのない残留農薬の量0.01ppm（1億分の1の濃度）、これは25mプールに1滴の農薬を落とした量と言われているが、市としてはどのような指導をするのか。



農薬の散布作業

農林畜産課長 市としてもこの対応については食品流通の禁止にならないよう、県・市・農協とともに指導していきたい。

後藤 この制度は輸入農産物の規制を強化するためとも言われており、国内の安全食品を提供するうえで、ぜひ指導して頂きたい。

外来生物マルハナバチについて

後藤 このマルハナバチはトマトの受粉作業をするハチだが、今このハチが生態系を壊すハチとして問題になっている。使用の規制が強化されるが、市とし

ではどのように対応するのか。
農林畜産課長 省力化の一環として面積の6割で西洋マルハナバチが使用されているが、出入口のネットを二重にして外に出ないようにする方法を取れば使用が出来るので、今後そのような指導をする。

アイデア展の開催をしては

後藤 生活の中で生まれたアイデア製品を集めた展示会を、イベントや文化祭の時に行つては。
農林畜産課長 実例として、主婦が発明したミニスリッパは、かかとを上げて歩くためスマートになるとして40億円の売り上げがあった。イベント等で検討する。
後藤 竹田市の中からも特許につながる製品が出るかもしれないので実現を。

敬老祝い金について

後藤 新市になり敬老祝い金を贈ることになっている。100歳・93歳・83歳の節目の祝いだが、100歳の時は市長が出向いて祝いをする事になっている。100歳未満は振込みとなっているが、せめて93歳の方については、市長代理として支所長等が直接訪問しては。
福祉事務所長 人生の先輩とし

て大切にしていかなければならない。今後見直しをし、検討していく。

学校や支所で使われていないイスの利用を

後藤 バス停にイスの無い所がある。イスの配置をしては。
教育委員会総務課長 旧祖峰中学校に処分できるイスが50脚あるので利用して頂きたい。
後藤 市長の指導で処分して頂きたい。使われない物を利用し、金のかからないサービスをしては。

市長 使われない物を利用することは良いことであり、必要なところは申し出を頂き、利用してほしい。ただ管理については消耗品なので、地域の方にお願しいしたい。



佐田啓二 議員

どうする企業対策

佐田 竹田市の製造業における事業所数、従業員数、出荷額は激減し、さらに竹田市内企業の転出や規模縮小、事業所の廃止

や転出は今後も予想されるが、その対策は。

商工観光課長 今後、商工会議所、三商工会、庁内関係課、企業との情報交換の場を考えたい。さらに、企業に戸別訪問し実態把握をしていくことが大事と考える。また、国、県の補助事業などもある。それらを取り入れることによってどういった事業の展開ができるのか、研究することは大事なので検討したい。

竹田商業高校の跡地活用は喫緊の課題だ

佐田 竹田商業高校は2年後には廃校となる。面積約4町歩、アクセスは良い。いろいろな活用方法が考えられる。喫緊の課題として早急な検討が必要ではないか。



平成20年3月に幕を閉じる竹田商業高校

市長 現在2年生、3年生が勉学に励んでいる中で議論することは不穏当なところもある。利

用については県有財産なのでどう考えていないが、民間が出てきてくれればありがたい。教育関係なども期待しているが、広大な土地なので残地が生じた場合どうするかという問題もある。今日まで先代から誘致活動をしてきたが、実を結ばないのは労働力の問題、社会基盤の整備の問題など諸条件が合致しない故だと思っている。いずれにしてもいろんな意見を出し合って考えていきたい。

中九州高規格道路の整備促進戦略はいかに

佐田 農工商観の振興に道路網の整備は重要。期成会と「中九州横断道路の早期完成を願う女性会」のパワーにより、大きく前進していることに敬服。しかし大分、熊本間120kmが開通して、はじめて竹田市が活きる。全線開通のための戦略は。

市長 平成19年度までに大野町まで開通予定だが、大野、竹田、荻区間はまさに暗闇の中であった。そのため、期成会や女性の会を発足させ他に類を見ない活躍によって今日まで来た。

荻町 から先が空白地帯になっている。これでは荻までの着工はならない。市域を超えて連携が必要。したがって阿蘇市長に「女性の会」の設立を要請して

議員ふんとう記

市民と議会をつなぐパイプ

私たち編集委員10名(正副議長含む)で、昨年8月から5号の「市議会だより」を発行した。議会広報は、議会の活動を市民に報告する情報発信の道具ともいえる。

それだけに、編集委員が意識していることは、だれもが「手に取って読んでみたい」と思える広報誌づくりだ。

「ここは、分かりづらい。句読点がない。この部分、書き換えてもらおう。」などと編集会議では厳しい議論も交わされる。



より良い市議会だよりを！

今期、紙面づくりの心がけたことは3点だった。まず、表紙の写真は旧1市3

きた。そして今回の「阿蘇と竹田」の女性が合同で行った「フオーラム」が実現できた。この席で宮田国交省九州整備局長から大野・竹田間の12kmの着手式を竹葉までにするという確約を頂いた。また荻から先の位置付けがポイント。そのため国交省道路局長にその部分の色付けを要請している。大野・竹田間の（着手式の後の）早期着工と竹田・荻間15kmの整備区間への格上げのため関係各方面の力添えを頂くために取り組んでいく。



坂梨宏之進 議員

農業振興について

坂梨 政府は昨年新たな経営安定対策、いわゆる品目横断的経営安定対策の大綱を決定し、農業に対する国の施策が19年度から大きく変わろうとしている。助成を受けるためには認定農業者で4ヘクタールの経営面積が必要である。現状でいけば、ほとんどの農家は当てはまらない。小規模農家の切り捨てと思える対策だが、要件達成が可能な認定農業者以外の小規模農家の対策はどのように考えているのか。

産業建設部長 国・県の方策として

は、担い手集中政策と考えられる。今後は個人経営から集落営農の組織委員として農業経営に参加するよう推進している。農家の方が今後の我が家を見通してもらい、その結論に基づき支援をしていきたい。農地を守り、地域を維持していくには個人経営でなくて、共同で経営していく考え方に転換してもらいたい。

坂梨 この経営安定対策の恩恵を受けるためには集落営農組織に参画しなければならぬ。竹田市の営農組織の現状は、産業建設部長 新竹田市の中で集落営農組織の活動をしている地区は34地区ある。今後は地区の実態に沿った組織の展開が必要である。市等関係機関で構成する竹田地域集落営農推進支部が営農組織の推進をしていく。

公営住宅について

坂梨 核家族化の影響が町部において、公営住宅の空きが無いとよく聞く。現状はどのようになっているのか。

建設課長 竹田市の公営住宅は合わせて541戸、そのうち、耐用年限を経過している木造・簡易耐火構造の住宅は200戸を超えている。今後の住宅建設

については、公共施設整備計画に基づいて、特に住宅戸数の少ない直入地区に4戸の計画から進めていきたい。



市営住宅建設予定地(直入町大字長湯)

地上デジタル放送の対応について

坂梨 デジタル放送の受信が困難な難視聴地域の対応はどのようなものになっているか。

総務部長 インターネットによる情報社会が進む中で、放送と通信の垣根は限りなく低くなり、いずれはインターネットでのテレビ視聴も予想されている。こうしたことから竹田市では難視聴地域対策として一部の地域だけに地上デジタル放送対策を行うのではなく、全戸を対象に光ファイバー網を構築するケーブルテレビ事業を行うことにより、きれいな映像だけではなく、双方向のブロードバンド環境やIP電話、告知放送により、竹田市民の情報インフラの整備をす

るよう計画している。具体的な整備計画は、19年度以降に実施計画、事業着手を行い、22年度までに整備を行いたいと考える。



荒巻文夫 議員

直入地区の中山間地域等直接支払交付金の過払いについて

荒巻 過払いについて精査したことを、事細かく説明をお願いしたい。当時の職員や、課長等関係者の名前も教えて頂きたい。

産業建設部長 高齢化に伴う農地の荒廃と、集落を守ることを目的として、この事業が行われている。12年度から16年度の間約30筆の約40ha分が過払いになっており、農家に一旦交付されたお金を返納しなければならぬ。この交付金は農用地区域に入っているのが条件で、入っていない農用地でも農家から申請書が出て、この申請書を県に提出し、県の許可が出れば中山間地域補助金がもらえる事になっている。旧直入町の過払いの件は、農家から出された申請書類が農業委員会が審議、同意されたが、その後県に申請せず5年

町の紹介をと名水シリーズを4回掲載、今度は名湯シリーズ。2点目に写真を多くして見やすい紙面に。

3点目に「議員ふんとう記」などのお知らせ欄を設け、議員活動を側面から紹介しよう。ご批判、ご意見をいただければうれしい限りです。

(編集委員長 加藤正義)

間そのままとなっていた。書類には何の落ち度も無いので県庁にもお願いに行った。職員や関係者の名前は控えさせていた。きた。

荒巻 ①直入の農家の関係者には説明したのか。②書類を5年開出し忘れていたと言われるが、13年度から15年度までは毎年面積が増えている、毎年金額も増えた分貰っている。それでも気がつかずに忘れていたのか。何をしていたのか。

直入総合支所長 ①集落毎に協議会を作っている中で、その中の役員の人たちには話をした。一般の人には市の方針が出たら話をする。②13年度から15年度まで面積が増えた原因は今、分からないが、平成12年、担当者が手続きの終わった一件書類に、別冊で同じ扱いをしたため、以後の担当者は編入手続きは終わったものとして引き継いだことに

より、判明できなかった。
荒巻 市の方針が出たらと言われるが、市の方針は出ているのではない。市長が行政のミスなので農家には負担を掛けないと言っている以上、誰がこの金を返納するのか。

市長 国や県とも協議をしているところであり、返還の額が確定すれば担当職員も含めて決断を下し、関係者の名前も公表する。

荒巻 全体で4、200万円で、国が1/2、県と市町村が1/4の助成で確定していると思っていたが、金額が確定していないとの返事であり、一日も早くはつきりさせて法的にどのようなものかまで、説明をお願いしておきたい。旧直入町以外の人たちへの説明はどのようにするのかも含めてお願いしたい。

納税について

荒巻 ①滞納者についての取り組みで、新市になつての滞納額は。②徴収の仕方は。③固定資産税の評価について、畜舎、農舎、ハウス等農業に係る建物の評価の見直しはしたのか。
税務課長 ①滞納額は一般会計と特別会計を合わせて3億7、000万円。②失業や病気で実際払えない人たちがいる。一般会計の滞納分についての徴収額

は約1、300万円。③担当職員が現地に行き評価しており、畜舎等は家屋になるものと償却資産になるものがある。評価額は物価と年数の経過で下がるものもある。



阿部重幸 議員

歴史・文化の保存について

阿部 1市3町が合併して2年目を経過しているが、各地域の対応をお聞かせいただきたい。聞くところによれば、地域の合併前の動きを見る事のできる行政文書等が地域に置いていない、1カ所（久住総合支所内）に保存しているとの話を聞くが、どうしてそのような事をしたのか。私も萩地域においては、萩町史談会の方々の強い歴史民俗資料館建設の要望等もあり、旧町議会の中でも議論を重ね、旧JA大分みどり基幹支店移転に伴い、旧萩町とJA大分みどり基幹支店の他の町有地賃借関係の整理要請を受け、旧JA大分みどり基幹支店の建物取得し、歴史資料館（萩みらい館）を設置、合併前の平成17年3月23日、萩みらい館開館式

を挙行した。町民の情報収集、歴史資料の展示保存、図書館の併設、保健体育の向上を図る目的で設置したはずであるが、そのような状況になっていないようだ。なぜなのか。



萩みらい館 歴史民俗資料室

文化財課長 新市が誕生して、旧1市3町で認定されていた指定文化財は全て新市に引き継いでいる。登録文化財を含めると、合計218の件数があり、所有者・関係団体で維持管理することとなっている。市の指定物件については、直営を原則としているが、部分的には指定管理制度を導入したり、清掃等委託管理をしている。前年度指定物件のうち3カ所については新たに石柱を建て、6カ所については石柱等を建てた。更に18カ所については旧町名を新市名へと変更した。文化財課では、指定文化財と埋蔵出土品について管理している。民具・古文書につい

ては、歴史的・文化的に価値があると認められた場合には、文化財指定の方向で取り組む。旧双城中学校跡地に文化財管理センターを設置しているが、旧3町の文化財は入っていない。

教育長 萩地域には萩みらい館があり、図書館についても素晴らしい利用実績があり、そちらで保存するほうがよいということであれば検討してみたい。

阿部 古文書、埋蔵出土品については理解できるが、公文書、いわゆる新竹田市になった議会等の行政文書、議事録等については地域で見られるようにしてもらいたい。

給食センターについて

阿部 給食センターの新設計画があるようだが、進捗状況について示していただきたい。3月議会の森哲秀議員の一般質問で、現在、森林組合に貸している市有地に1、500食対応の建設計画を示し、エネルギーについてはIH、いわゆるオール電化の方針を示した。地域にはLPガス業者が多数あり、また業者の皆様には地域活性化に多面から協力を頂いているにもかかわらず、行政はどのように思っているのか。他市の給食センターの事は事例として考慮しないで頂きたい。地域の活性化を考え

ないと今後は市政がうまく動いていかないと思うが。

教育長 今後基本設計の段階で検討する。その他農業の振興について、市民の安全安心の確保について、納税組合のその後について質問した。



大塚 廣 議員

牧市政 2年目に向けての抱負

大塚 「破顔一笑、声かけ運動」「三愛五わ」を政治信条として就任された市長に、多くの市民は大きな期待を持っていると思う。牧市政2年目に当たって、今後の竹田市の進むべき方向等についての思いをお伺いしたい。市長 過疎化や高齢化の進む竹田市にあって、ともすればマイナス指向になりがちだが、そんな中にあるのも、お互い明るく笑顔で話をしよう、そして、このすばらしい環境に誇りを持って、力を合わせて身も心も健康で豊かな潤いのある暮らしを求めていきましようというのが、「破顔一笑声かけ運動」「三愛五わ」

で表した私の政治信条。

まずは、随より始めようと、市役所内部から声かけ運動を始めた。評価は市民の皆様にお任せしたいと思うが、これが事務事業の適確、迅速化につながればと期待している。

私はまた「広く大きく、もっとひとつに」とのキャッチフレーズをも使ってきた。1市3町が一つになったことで、大きなエネルギーとしてこれを生かしていく必要があると考えている。そして、この連携は、さらに輪を広げた近隣他市との連携も重要と考える。

その成果の一つが、6月10日に開かれた、阿蘇と竹田の女性団体の共催で開かれた高規格道路早期建設に関する女性フォーラム。竹葉までに着手式という大きな成果を得た。



建設が進む中九州横断道路
(千歳インターチェンジ)

また、阿蘇くじゅうデザインセンターの立ち上げ、九大や大分大との連携など、輪を広げも

つと一つにということが、それなりの効果を上げていると信じている。

いずれにしても、基幹産業である観光、農業の振興を図るため、流入人口増大への取り組みは不可欠であるので、先の信条を座右の銘としながら、今後も頑張っていきたい。

無償貸与物件の見直しを

大塚 財政難の折から、市が無償で貸与している物件の見直しをするべきではないか。

財政課長 現在43団体と無償貸与契約を結んでいる。主なものは、竹田商工会館敷地、竹田森林組合敷地、ドイツ村売店、直入教育会館など。契約先は公共の団体とされているので、契約の見直しは慎重にしたい。



土居昌弘 議員

政策づくりに市民の視点を

土居 「行政による『公共』の独占が続いている。公共政策はお上が行うものという考えが根深い。ええ、日本の公共事業はもっ

ばら行政が一方的な担い手となつて推進している。

その「公共」が今、危機的状況なのだ。健全ではない。

社会が存続しうるためには、その時代にふさわしい「公共」をつくらねばならない。

その「新しい公共」を構築するためのキーワードが「市民」なのだ。

行政が市民の目線と同じ目線を持つて、市民の暮らしを見つめる。またある時は、市民と一緒になつて見つめる。そしてそこから課題を明らかにし、その課題の改善策をつくっていくかなければならない。

竹田市では政策形成や実施過程に、どのように市民の目線を取り入れようとしているのか。総務課長 はじめに、現在の制度は議会制民主主義。「議員は市民の代表」と捉えている。

次に、市民が政策過程に係わる方法として、アンケートやモニター制度、座談会、審議会などがある。これまでも市民の視点を取り入れようと努力してきたつもりだ。

土居 市民の視点でつくった政策を議会で議論したいだけ。

竹田市では、今年度策定予定の基本計画がいくつかある。市民の視点をどのように取り入れるつもりか。

〈男女共同参画プラン〉

総務課長 庁内実務部会を作り、その方策について検討したい。

〈人権教育・啓発基本計画〉

人権・同和対策室長 市民アンケートを実施し、それを反映させた案を、市民各界の代表で構成される審議会で審議する予定。

〈観光振興計画〉

商工観光課長 各地域の観光に携わる人々17名で、ワーキングチームを結成。そこで議論されたものを推進委員会で審議した。また、スローツーリズム研修会などの大会で策定の中間発表をし、それに対しての市民の意見を聴いた。

〈生涯学習振興計画〉

生涯学習課長 乳幼児を持つ保護者、PTA、高齢者、女性代表を委員とする委員会を作る。市民の意見を広く拝聴したい。

〈健康づくり計画〉

健康増進課長 市民アンケートを実施し、策定する。課が保有する市民のデータも反映させる。策定委員は健康づくり協議会の会員を予定。

〈地域福祉計画〉

福祉事務所長 市民意向調査や座談会、策定委員に公募の枠を設けるなどして、様々な分野からの市民参画を計画している。

土居 これらの計画は、その地域の実情に合わせてつくられるべきだ。地域の実情に合わせて“の度合いを増して”

竹田小学校通学路の安全確保について

渡辺 竹田小学校校舎建設委員会が要望・陳情した内容が、これまでどのように検討され整備をしてきたのか。

学校教育指導室長 平成5年8月27日、12月21日、平成7年5月に、当時の建設委員会やPTA等から教育委員会に陳情・要望が出されている。豊岡橋から営林署の間は、歩道を広めに取りゼブラを設置、入口反対側には、子どもの目線に合わせたカー



渡辺龍太郎 議員



通学路を安全に(市道濁淵川向線)

ブミラーを設置し、信号機や予告灯の設置等を行った。市道七里線では、側溝蓋の整備、道路やトンネル内の舗装、トンネル入口の拡張、防犯灯の設置、登下校時間に合わせた車輛の通行制限等、建設委員会やPTAの要望に対し改善整備を行なっている。

渡辺 危険と思える区間は、約600mで、市道濁淵川向線には歩道もなく交通事故の危険性があり、市道七里線については、400mの間に死角となる所が4カ所程あり、児童にとつては非常に危険と思うが、現状を改善することはできないか。

建設課長 トンネルから元大分銀行寮のあたりまでS字カーブで路面等も段差がある。市長から調査の指示もあり、その結果、道路幅員も狭い上、登下校中に車で離合の際には危険であることが判明した。今、土地の所有者の割り出しを行っており、所有者の理解がいただければ早速拡幅工事を行ない、100%とはいかないが、竹田小学校通学路の安全確保に努める。

竹田玉来線 街路整備事業について

渡辺 この事業については、2年間県の支援で、まちづくりの観点から地域に本来に必要な道

路はどうあればよいのかを考えて来た。世話人会によるまちづくり協議会も立ち上がり、素案となるCG(コンピュータ・グラフィック)も出来、これから街全体で議論していく段階であるが、本年度から県は、街路事業の支援をし、まちづくりについては、市が支援するようにしたが、予算を含めどのように支援を考えているのか。

建設課長 検討委員会では、市道でもあり市が中心となつてまちづくりを支援していく方が良く、という事になり、本年度から市が組織の支援やPR、資料作り、運営等を支援する。予算は、まちづくり交付金事業で、本町活性化計画委託料を400万円計上している。

公共施設の跡地利用について

渡辺 学校の統廃合、本庁方式による支所の活用など地域にとつてどうなるのか、深刻な問題となっているが、市としてどのように考えているのか。

総務企画部長 商業高校については県の所有地であり、市としての対応は、具体的にコメントする段階にない。市としては、市自体の公共施設について、行財政改革の観点や有効活用の点からも慎重に協議し有効活用していく。

暑中お見舞い申し上げます

公職選挙法の趣旨に基づき、暑中見舞いなどのあいさつ状を廃止させていたいております。

また本年度初盆を迎えられるご家庭への供物等につきましても失礼させていただきます。

新仏のご冥福をお祈りいたします。



竹田市議会



あとがき

▼ラジオで聞いたことだが、句読点が使われたのはつい最近のことらしい。その名残としてあるのは年賀状、表彰状など。よく見れば本当だった。さらに、句点の他は、一般的目安安はあるものの、基準は確立されていないとのこと。(坂梨宏之進)

▼中山間地交付金過払い

我が地元といえ、余りの責任・任務のなさにあきれる。地方公務員法第30条による職員の仕事の根本基準に沿って格段の努力をお願いしたい。(伊藤孝信)

▼コスモスロードが復活した。

10数年間、祖峰中学の通学路に生徒と地区民でコスモスが植えられ、色とりどりの花が風に揺れた。閉校と共に消えたが、やっぱりないときみしい。この程、地区民3・40人ほどが集まり、苗が植えられた。美しい里の秋が楽しみたい。(加藤正義)

▼草木が生い茂り、市道の除草作業が、高齢化が進むにつれて大変厳しい状況である。緊急時や通学路の事を考えると生活道路の除草作業には対策が必要と思われる。

作業には、怪我等十分注意をして下さい。(徳永信二)

市議会議長会表彰

去る5月24日、東京日比谷公会堂で開催された全国市議会議長会第82回定期総会の席上、工藤一成議員が議員として15年間市政振興に当たられた功績により表彰されました。

ますますのご活躍をお祈りいたします。

